レッスン：SPA/NO.12

テーマ：シンボルに関する質問

SPA12/DOC/SPYRJ13.KE5/

私の姉妹・兄弟たち

スピリット、光、火の子供たちよ。

私たちは常に主、絶対、神の聖性に抱かれています。

以前のレッスンで、様々なタイプのピラミッド、様々なタイプのシンボル、そして総体としてそれら様々なタイプのピラミッドおよびシンボルにおける生の現象としての現在のパーソナリティーについて扱いました。あなた方のなかには「しかし、どんな種類のシンボルを扱ったのだろう？ピラミッドはシンボルなのだろうか？」と言う人もいるかもしれません。そうです、それはシンボルであり、非常に重要なシンボルです。なぜなら、以前述べたように、四面ピラミッドは四つのエレメントをマスターした人間を示しており、それが人間と四面ピラミッドの関係です。しかし、現在のところ、人間は四面ピラミッドの中にはおらず、その下にいます。

無知のなかにいる間は、人間は自分の墓にいて、地中のなかで土にフォーカスしています。真理の探究者のするべき努力とは自分の墓から抜け出て地中を旅し、四面ピラミッドのなかに立つことができるようになることです。そこで初めて真のワークがスタートするのです。私たちはピラミッドの比がどのようなものであるべきか、などについて述べてきました。さらにまた、私たちは墓のなかで多くのエクササイズをやりました。それは四つの壁に囲まれた部屋であり、またピラミッドのなかでも多くのエクササイズも行ってきました。

これらすべてのエクササイズの意味とは何でしょうか？パワーと能力を現わすためでしょうか？違います。唯一の目的は気づきを高め、もっと多くのアガピ、もっと多くの愛を表現するためです。なぜなら、私たちが墓から出てピラミッドのなか、ピラミッドの底部に到達するまでの旅の間に、多くの危険に直面するからです。

それでは、どのようにしてそれらの危険に立ち向かうのでしょうか？愛と共に、アガピと共にです。これが私たちが手にする唯一の武器であるべきです。愛、アガピとしての生の特質からのこの表現に対抗できるものは何もありません。それゆえに、真理の探究者としての私たちは気づきの上昇、より良いセルフの表現、より高い気づきの表現、思考・行動の仕方のより高いレベルだけにフォーカスすべきなのです。能力？そうです、能力は生としての私たちの真の本質にある特徴をもっともっと多く現わすようになると、結果的に能力も徐々にゆっくりと現れるようになります。

ですから、エクササイズは気づきの上昇のために助けとなります。しかし、それだけでは十分ではありません。私たちがこの教室で聞くこと、教えられることすべてを日常の生活において適用し、もっともっと多くの愛、多くの理解でもって同胞の人間を抱きしめるように努める必要があります。

質問：ピラミッドの底部に到達すると、探求者はどのようなレベルの現れになるのでしょうか？また、そこに至る途上でどのような危険に遭遇するのでしょうか？

Ｋ：探求者は意識的意識のセルフ・エピグノシスのレベルに到達する必要があります。墓から出てピラミッドの底部に到達するまでの間にどのような危険に遭遇するでしょうか。

Page2

私たちは人類が時のなかで築いたエレメンタル、および自分自身のエレメンタルの影響に出会います。今のところは、私たちは無知によって守られており、さらにまた私たちが自分の家または自分の城と呼んでいる墓の境界によって守られています。多くの人々はこれについて認識せず、行うべきではない鍛錬を行った結果自分たちの城の窓、ドアーのいくつかを開くことに成功し、城の周囲のジャングルからエレメンタルが侵入するのを許す結果となっています。それらの人々は悪霊その他に出会い苦しんでいます。私たちは、実際には墓である自分の城の外に出て、そこから四面ピラミッドの底部まで旅をし、そのピラミッドの中に立つ準備が出来るようになって初めてドアーを開くのです。そうする準備が出来たときには、何ものも私たちに影響を与えることはできず、道を邪魔するものは何もありません。私たちは何をも恐れません。というのも、生には恐れるものは何もないからです。無知だけが恐れを表現するのです。ですから、ドアーを開く前に、対立するものに直面するために必要な道具を手に入れる必要があります。実際、私たちは気がついていませんが、私たちが創造した多くのものが対立する相手に奉仕しており、特に過去に人類が創造したものがそれらに奉仕しています。結局、私たちは対立する二元性の世界、他でもない私たちが創造したバランスの諸世界に生きているのです。

質問：四面ピラミッドのなかで赤、ホワイトブルー、ウルトラバイオレットの光に自分自身を開こうとする時、自分自身をミカエル、ラファエル、ガブリエルに同調させようとします。私の記憶では、私たちは自分の内側にいる（例えば）ミカエルに同調するのであり、ミカエルのオーダーに同調するのではない、とあなたが述べたように思うのですが、それらはどのような違いがあるのですか？

Ｋ：そうですね。創造の諸世界において四つ…実際には五つ…のアークエンジェルが人間に付き添っています。一つはいわゆる守護天使ですが、それは実際には天使ではなくアークエンジェルであり、その人間が魂のセルフ・エピグノシスまたは現在のパーソナリティーであろうとも、守護天使は人間のそれぞれの現れの特徴および形と同一です。さらに創造界において人間に同伴している他の四つのアークエンジェルがいます：ミカエル、ラファエル、ガブリエル、ウリエルです。

さて、私たちが四面ピラミッドのなかでそれぞれのエレメントを担当しているそれらのアークエンジェルに同調しようと試みるとき、その同調に成功するのはそれらのなかの一つのアークエンジェルを通じてなのです。複数のミカエルではなく一つのミカエル、付き添っているそのミカエルが私たちが複数のミカエルに同調できるように助けてくれるのです。というのも、覚えているかもしれませんが、私たちの内側にはミカエルがいますが、それは特定のオーダーの多様性のなかにあるものではありません。それはオーダーからのミカエルではなく、それは魂のセルフ・エピグノシスの最初の瞬間に私たちと一緒に下降したミカエルです。

このミカエルに「あなたは誰ですか？」と尋ねるなら、彼は「私はミカエルです」と答えるでしょう。特定のオーダーに属するもの、あるいは他のオーダーに属するものに尋ねても、同じように「私はミカエルです」、または「私はガブリエルです」というように答えるでしょう。それはオーダーにおける無数の一つであっても、そのように答えます。彼らは彼らのモナドの自己実現を現わすことはしません；無数のガブリエル、無数のミカエルがあり、彼らは自分たちのモナド・セルフの（＊個々の）分離・識別を認識しないのです。しかし、私たちは自分たちのモナド・セルフの分離・識別を表現し、実現しようとしているのです。アウタルキーにおける聖なる黙想の動きにはそれ以外の目的はありません。なぜなら、諸宇宙のなかにあるものは全て絶対存在、神のアウタルキーのなかにあるからです。

質問：各ミカエルは「私はミカエルである」ということだけに気づいているのなら、創造界への人間のイデアに伴うミカエルと区別する違いは何でしょうか？

Ｋ：一つのミカエルは最小のなかにあって、同時に最大のなかにあるかもしれません。それが果たすべき特定の仕事があり、それはその特定のオーダーのプログラムされたセルフ・エピグノシスから導かれます。現在のパーソナリティーに付き添うミカエルは最小のなかにはおらず、実際そのミカエルは聖霊的仕事は行いません。しかし、現在のパーソナリティーと特定のオーダーの間に立って、**仲介者**となって現在のパーソナリティーに付き添います。それだけです。そして、現在のパーソナリティーを助けるのですが、ミカエルのオーダーから、あるいはガブリエルのオーダーから、またはラファエルのオーダーなどからの特定の仕事においてのみ助けるのではありません；彼らは自分たちが属するオーダーが行う特定の仕事を果たすのではありません。彼らの仕事は全体的に現在のパーソナリティーを助けることであり、現在のパーソナリティーのための特定の仕事をするのではありません。

Page 3

質問：個人に付き添うアークエンジェルの目的は、基本的にそのパーソナリティーがそれぞれのオーダーに同調できるよう助けることですか？

Ｋ：そうです。そのオーダーに、そしてその特定のオーダーが行う仕事に同調するのを助けます。そのオーダーに同調する目的は、オーダーの仕事に同調するためです。

質問：天使および非常に高い意識に到達した人間とでは、どちらがより高い存在なのでしょうか？なぜなら、あなたが述べたように、天使の上に立つ例えばミカエルには彼らに与えられた神の意思があるからです。私たち人間はそのパワーに到達する必要があります。というわけで、どちらがより高い状態にあるのでしょうか？

Ｋ：私は次のように説明します。創造のための神の黙想とその表現は人間のためです。それによって“恩恵を受ける”のは人間です。というのも、実際は“恩恵を受ける”か否かという問題ではありません。すでにあなたのものである何かを現わす、ということです。魂のセルフ・エピグノシスとしての人間は同時にアークエンジェルであり、ロゴス的現れであり同時に聖霊的現れです。アークエンジェルが表現することなら何でも人間も表現できます。しかし、人間は自己実現するとそのセルフ・エピグノシスには制限がありません。今、自己実現した魂のセルフ・エピグノシスについて話しているのですが、彼はあらゆるアークエンジェルが現わすものならなんでも現わすことができます。ですから、人間は至高であるというよりむしろ、人間は神の黙想のなかで中心的役割を担っており、それゆえにそうである、と言うべきでしょう。

転生のサイクルにある間、現在のパーソナリティーとして実存の諸世界にいる間でさえ、現在のパーソナリティーはアークエンジェル的ヒポスタシス（＊ある状態にあること）を表現することができます。しかし、アークエンジェル的本質ではありません。私たちの兄弟であるアークエンジェルたちはこの神の黙想、創造と表現という活動を助けており、それゆえにアークエンジェルは絶対存在のダイナミックな現れの両手であり、いわゆる聖霊的現れであり、総体として聖霊なのです。

質問：ということは、もし地下の四面ピラミッドにいる間にそれを使用するなら、それは同調を始める一つの方法であるということですか？また、ピラミッドの地上の底部に到達したときには、彼らと共同作業をするということですか？

Ｋ：様々なアークエンジェルのオーダーとの共同作業をスタートするためには、私たちはいわゆる意識的意識のセルフ・エピグノシスを表現するだけでなく、超意識的意識のセルフ・エピグノシスを表現し、火の洗礼を経る必要があります。その時初めて、私たちはヤコブの梯子、ヤコブの梯子の14のステップを昇ることができるのです。勿論、私たちは同時にエゴの様々な局面を殺すために別の梯子も昇る必要があります；古代ギリシャ人によれば、ヘラクレスの様々な難業です。

質問：私はこれまで学んできたすべてのなかで明確でない部分をクリヤーにしようとしています。あなたの話によれば、人が一度地中の部屋から出て、ピラミッドの底部に立つようになるということ、それはその人が意識的意識のセルフ・エピグノシスに到達したという意味でしょうか？それはまた、そのパーソナリティーが半神となり、今までとは異なったエゴの局面と直面する準備ができ、ヤコブの梯子を昇り始める準備ができたという意味でしょうか？そして、それが火の洗礼の始まりなのでしょうか？

Ｋ：現在のパーソナリティーがいつ半神とみなされるのか、エゴの様々な局面全てと向かい合い、それらを殺すために必要なあらゆる知識と表現を得ることができるか、それをあなたは知りたいのですか？あなたはいつだと思いますか？誰かが意識的に生き始めたときでしょうか？勿論です。そこからスタートしますが、しかし現在のパーソナリティーは実際にはまだその準備ができていません。実際に殺すのを始めるためには…というのも、現在のパーソナリティーはそれを殺し、取り除く必要があるからですが…エゴの局面である獣を手なずけるのではなく、それを殺して除去しなければなりません。そして、それを始めるには、超意識的意識のセルフ・エピグノシスを現わし始める必要があります。その時初めて、現在のパーソナリティーはその真の特質の多くを表現する結果として、多くのパワー、能力を持つ半神とみなされることができるのです。

質問：それは人がピラミッドの底部に立っているときですか？

Ｋ：ピラミッドの底部ではありません、私はピラミッドの底部とは言いません。それはピラミッドのなかのどこか、どこかです。

質問：しかし、人がいつ地面の下から姿を見せてピラミッドの底部にいるようになるのか、私にはまだ不明確なのですが？

Ｋ：それについては既に述べました。ピラミッドの底部に到達するためには、人は意識的意識のセルフ・エピグノシスの現れに到達している必要があります。さもないと墓、部屋から（地上に）到達するまでの距離を旅することができません。次のように、無知の領域から自分自身に関する多くの知識の現れへ、と言い換えることもできます。それゆえに、あなたが四面ピラミッドのなかに入ってその中に立っているとき、あなたは現在のパーソナリティーとしての自分が何であるかを知るようになるでしょう。自己実現したセルフ・エピグノシス、あるいは魂のセルフ・エピグノシスのことを述べているのではありません。現在のパーソナリティーとしてのあなたは少なくとも自分が何であるか、自分のやるべきことが何なのか、同胞である他の全ての人間とあなたとの**関係**が何であるか、自分の目的が何であるか、を知るようになるのです。誰かから聞いた単なる知識ではなく、あなたは自分の内側から、現在のパーソナリティーとしてのあなたの存在からわかるようになるのです。

質問：それでは、そうなった時にワークがスタートするのですか？

Ｋ：真のワークはそこからスタートします。それは経験に基づいた知識の展開としての真の探求となるでしょう。あなた方が現在得ている経験的知識は単に理論によるもの、あるいは自分の夢のなかの出来事を覚えているようなもので、表面的なものにすぎません。経験に基づく真のワークは、現在のパーソナリティーが四面ピラミッドの中にいる時に初めて始まります。その時初めてあなた方は経験に基づく知識を得、その時初めてあなた方は相対的リアリティー…しかし、それはあなたにとってはリアリティーなのですが…の様々なレベルに自分の指を置くことになるのです。今でも、あなた方が触れているものはリアリティーですが、実際はリアリティーではありません。

質問：それでは人々はピラミッドのなかにあっても、ピラミッドのなかの異なったレベルにいて、最終的には各パーソナリティーは自己実現した人間としてピラミッドの頂上に到達するのですね…

Ｋ：…あなたは私の口に言葉を押し込もうとするのですか…

質問：全体像を見ようとしているのです！

Ｋ：あなたには忍耐が必要です。忍耐です、というのもこれらの事柄はゆっくりと与えられ、ゆっくりと進む必要があります。私たちは常にしっかりした基盤の上に立ち、ゆっくりと進まねばなりません。それ以外の道はなく、前に進むにつれてより詳しい知識が与えられます。そうです、様々なタイプのピラミッドについて過去の人間は知っていました；過去との違いは、現在は私たちがそれらのシンボルにどのようにアプローチするかです。今、細部が過去とは異なっています。

四面ピラミッドを例に取ると、かつてはいわゆる死者を助けるためのものだとみなされていました。彼らは無知のなかにいる自分たちを死んでいる者とは考えなかったのです。しかし、いずれにしても現在は違います。（＊過去において）もし何かが彼らの内側からひらめいて、彼らが現在のパーソナリティーと、総体的に人間と関係づけたそれらのモニュメントを創造したとします。しかし、あるべき仕方、真の仕方ではありませんでした。それを私たちは今明らかにしようとしているのです。

質問：五芒星についてもうひとつ質問したいのですが。自分を五芒星のなかに置くとき、私たちは自分の肉体の周囲にそれを作ります。意識の動きとしての私たちは肉体ではないので、意識の動きによって自分を五芒星で囲んでも、自分は自由であって、枠、境界のなかにいるわけではありません。しかし同時に、自分の想念、思考が速く動いているというセンセーションがあります。私はそれがどのように関係しているのかわからないのです。

Ｋ：あなたが五芒星のなかにいるとき、あなたがその中に見ているのは単なる想像上の体ではありません。あなたが実際そのなかにいるのであり、あなたが五芒星のなかに見ているのは、あなたの肉体および他の体です。たとえ思考を使って意識のセルフ・エピグノシスを動かしていても、あなたが創造しているものを考えている瞬間、あなたはエレメンタルであるあなた自身の形の同一体を創造しているのです。今のところ人間は形という境界なしには自分の意識を動かすことはできないからです。そして、そのエレメンタルは五芒星によってカバーされるのです。もし私たちに形という境界がなければ、五芒星が何の役に立つのでしょうか。五芒星は何を保護するのでしょう？肉体およびサイコノエティカル体です。サイコノエティカル体はエーテルのバイブレーションあるいは物質的バイブレーションのなかで奉仕するためにバイブレーションを下げます。しかし勿論、人がそのような助けを提供できるようになれば、そのような能力を得るレベルに到達すれば、その時には五芒星は使用せずに六芒星を使うようになります。

質問：それらの諸世界を経験する他の兄弟たちとはどういう意味ですか？

Ｋ：私たちが同調することのできる他の兄弟たちはこのリアリティーに生きていますが、現在のパーソナリティーとしてではなく魂のセルフ・エピグノシスとしてです。同調とは言葉を通じておこなうのではありません。あなたがそれらの存在と同調するとき、存在の諸世界で起きていることを言葉を通さずに教えられるのです。そうです、人はテオーシス（＊数多くの転生を経た後に到達する成長の最終段階。神との再合一）のリアリティーを生きた存在にも同調することができるのです。しかし、“教えられた”なかのどれだけを私たちが認識できるかは別問題ですが。認識されたものをさらに把握するだけでも、その人はそれらのバイブレーションをかなりよく知っている必要があります。古代ギリシャ人はこの生命の木についてよく語っていました。しかし、勿論、この地球の年齢を考えるなら、古代ギリシャの歴史などごく最近のことです。かつて人間はこの地球における数百万年も前のことを知っていたのです。

質問：しかし、私たちの現在のワークは墓のなかですが、これは困難なワークです。なぜなら、あなたによれば、天使はあるブレーシスつまり神の意思を表現しています。しかし、私たちはそうではありません。各人が異なったバイブレーションを発しています。

Ｋ：アークエンジェルのことですか？そうですね、彼らのバイブレーションは属するオーダーのバイブレーションであり、ミカエルのオーダーには無数のミカエルがいます；ひとりのミカエルのバイブレーションは全てのミカエルのバイブレーションと同じです。それゆえに、彼らの黙想は全て同じであり、ミカエルのオーダーの黙想です。

質問：しかし、私たちはピラミッドのなかでミカエルのバイブレーション、ラファエルのバイブレーション、ガブリエルのバイブレーションなどを扱うわけですが…。

Ｋ：ピラミッドのなかでは私たちはアークエンジェルのオーダーに同調しようと努めます。何故でしょうか？各オーダーが担当しているエレメントについてマスターするためです。私たちが存在の諸世界から実存の諸世界へと初めて下降したとき、ミカエルが助けてくれました。

反対側はラファエルですが、ラファエルはヤコブの梯子を担当しており、ヤコブの梯子の一つ一つのステップを昇ることによって、私たちは14のアークエンジェルのオーダー全てに同調しようとしているのです。どのようにしてアークエンジェルのオーダーに同調し、あなたのアークエンジェル的ヒポスタシス〔＊状態〕を表現するか、これは勿論過去においては知られていなかったことです。そして、これを知ることは現在の人間にとっても困難なことです。それゆえに多くのシステムが、ロゴス的現れである人間を他の多くの意識の現れと混同しているのです。なぜなら、それら（＊様々なシステム）はこれら二つの梯子について、およびそれら二つの梯子と人間の関係について無知だからです。それゆえに、それらは人間とそれ以外の全ての生の世界とを混同しているのです。

Page 6

質問：前にあなたは、人間が梯子を昇り、エゴを根絶すると言いました。これはおかしな質問かもしれませんが、啓発を得たいという願望もエゴではないでしょうか？

Ｋ：啓発を得る？しかし、啓発とは全ての人のなかにあります。私たちは自分たちが持っていないものを表現しようとするのではありません。私たちが除去しようとしているのは、ある目的に奉仕している境界です。そして一度私たちが個別性を現わしたなら、それは既に目的に奉仕したということではないですか。私たちが無知に取り込まれている主な目的は個別性を現わすことです。一度私たちがそれに成功すれば、私たちは道を短くすることができます。実際、それを行うのは私たち次第です。私たちは既にその目的を実現したのですから、近道したほうがよいのではないでしょうか。それはエゴなどという問題ではありません。なぜなら、エゴのあらゆる局面を殺すことによって、ヤコブの梯子の様々なあらゆるステップを昇ることによってそのポジションまで来るのです。それは思考・行動の仕方にバランス、平衡をもたらすため、意識とセルフ・エピグノシス、ロゴス的および聖霊的なものに平衡をもたらすためであり、その結果、現在のパーソナリティーはバランスのあるパーソナリティーを現わすようになるのです。なぜなら、私たちはそこまで来てもまだパーソナリティーだからです。

私たちの諸体が浄化され純粋である時初めて、私たちの仕事は成功するでしょう。そして、自らの現在のパーソナリティーにエゴ的にフォーカスしない時初めて諸体が浄化されるのです。現在のパーソナリティーが同胞の人間たちを抱きしめることができるようにすること、それが私たちのするべき努力です。そして、その時初めて私たちはアセンションすることができるでしょう；もしそのような動機（＊同胞の人間を抱きしめること）が意図の背後になければ、私たちは何事にも成功しないでしょう。

現在のパーソナリティーはイリュージョンを表現することもあります、特に自分自身にフォーカスしているパーソナリティーは。しかし、それもあるレベルに到達するまでです。あるレベルから上になるとイリュージョンもなくなり、現在のパーソナリティーは座って「自分は何をしたのだろう？」と言うようになるでしょう。

その道を最初に開く人は困難ですが、それに続く人々にとってはずっと楽になります。さらにまたその後に続く人々にとってはもっともっと容易になります。例えば、このレベルの現れに到達するのに千回、あるいは二千回の転生が必要だったとします。しかし、その後に続く人々の場合にはそれほどの転生を経なくてもそこに到達できるようになります。そのようになっています。あなたの現れのレベルに到達するのに、後の人々はその半分、三分の一の転生で十分かもしれません。そのようになっており、それは良いことです。

質問：私たちは墓のなかで一人でいるのですか、それとも他の人々も一緒ですか？

Ｋ：私たちは決して一人ということはありません。人間は決して一人ではありません、私たちは決して孤独を感じるべきではありません。実際、私たちは常に付き添われています。私たちの中で…私が今、中でと言うときそれは肉体のことを言っているのですが…無数のミカエル、ラファエル、ガブリエルそしてウリエルがこの私たちの肉体を維持するために働いており、また私たちが与えた損傷を修復するために働いています。ですから、無数の他の存在が常に私たちの近くにではなく、私たちの内側で、私たちが自分自身（本当はそうではないのですが）と呼ぶこの肉体のなかにいるのです。しかし、たとえ現在のパーソナリティーとしても、それは私たちの真のセルフの全体ではありません。それは私たちの内なるセルフ、魂のセルフ・エピグノシスとしての生の微細なスパークにすぎません。そして魂のセルフ・エピグノシスでさえスピリット存在としての最内奥のセルフからの微細なスパークなのです。

忍耐が必要です。そしてあなたの同胞の人間たちを…たとえ彼らが何を表現していようとも…抱きしめるようにしなさい。なぜなら、実際には同胞の人間たちは私たちと等しいものであり、私たちのセルフでもあるからです。

私たちは常に主、絶対、神の聖性に抱かれています。

EREVNA.SPA.12/DOC/PYRMY13/KE5